

国語 文学部、教育学部、経済学部

□ 現代文

問一 a 露呈 b キロ c 過疎 d 先駆者 e タワム f 途端 g 形骸 h ボウサツ i ケンソウ
j シカン

問二 A イ B オ C エ D ア

問三 地域共同体の崩壊と競争社会の浸透によってもたらされた、社会全体がゆとりを失ったという困難な状況。(四十八字)
精神障害者や子どもといった社会的弱者が地域において集うための場所が、自発的に生まれたという状況。(四十八字)

問四 (1) 無為(二字)

(2) 社会的な活動から離れ、何もせずにいることができる居場所は、そもそも目的というものを必要としないために、社会のなかに目的を持たず社会に影響を与えることもない、自由で即興的な遊びを生み出すことができる。(九十九字)

問五 外に繰り広げられる時間という視点から考えると、現在しか存在しない円環的な時間であり、内に折り込まれる時間という視点から考えると、日常生活の緊張やあわただしさから解放された静的でゆるんだ時間である。(九十八字)

問六 ア

古文

問一 歌を早々と詠み、公表してしまった後、よりよい言葉や趣向を思いついて、もっとよい歌が詠めたはずなのに残念なことをしたと後悔する、歌を詠む際に熟考しないという難点。

問二 丹後にいる母和泉式部に歌合に出ず歌の手助けを得ようと遣わした使者を待ちわびているだろうと、定頼が小式部の内侍をからかったのに対し、自分は丹後に足を踏み入れたこともなく、母からの手紙も見えていないと、自力で歌を詠めることを示す意図をこめた。

問三 小式部の内侍が、定頼のからかいの言葉を聞いた直後に、その発言にあった「丹後」を踏まえて「大江山」「生野」「あまの橋立」と丹後へ通じる地名を詠み込みつつ、掛詞や縁語を用いて、定頼の発言内容を否定し、定頼が返歌もできないような見事な着想の歌を詠んだ点。

問四 (B) 私の手にしている山吹の花は、梶子で繰り返し何度も染めたように見事な色だが、私はその梶子ではないが口が無いため、歌を詠むことができず通り過ぎるしかないのだよ。

(C) この山吹の花は、まあ何とも言いようのないほどすばらしい梶子色だが、なるほどあなたは口が無いから、この花を素材に歌を詠むこともできないのだなあ。

問五 道信の詠みかけた上の句に対し、若い女房達は付け句ができなかったが、上東門院の命を受けた伊勢大輔が、道信の意図を理解し即座に見事な付け句をしたことで、上東門院に仕える女房達は歌も詠めないという不名誉な評判を立てられずに済んだということ。

三 漢文

問一 a より b のみ c しかず

問二 近ごろ浜松侯は自分で古い瓦の中から最も優れたものを選んで、その拓本をとって図録を作り、

問三 物の価値は時に応じて変わるものであり、平時には誰もが貴ぶ宝玉や金貨も、凶作で飢饉のときにはわずか一握りの穀物の価値にも劣るようになるから。

問四 壊れた古い瓦でも歴史や文化を知るために活かせるので軽視できないのと同様に、役に立たないと思われる人物にも長所があるのだから、為政者はどんな人材も軽視せず活かして用いる必要があるということ。

問五 苟くも能く之を器使すれば、使ふべからざるの人無し。
(苟くも能く之を器使せば、使ふべからざるの人無し。)

問六 浜松侯が古を好み古瓦を愛好していることは、収集にうつつを抜かして政治の志を失っているように見える。しかし侯が価値もない古瓦を愛好するのは、どのような人材も軽視せず登用しようとする侯の姿勢と共通している。さらに、侯が古の道や賢者を尊び、老人や旧知の能力を用いて志を遂げようとしているとわかるからである。(一五〇字)